

皇都小澤東陽先生著  
東都柳川重信先生畫

後編

# 繪本烈戰功記

東都  
浪華

書林

知新堂  
羣玉堂

合梓

池清

繪本烈戰功記後編序

五德二柄者將帥治兵之要也何  
謂五德曰智信仁勇嚴也何謂二  
柄曰賞罰也智以能謀信以固約  
仁以愛人勇以陵敵嚴以涖衆  
賞罰以示勸懲五德也二柄也不可

遠 13  
225  
13  
248

四  
又  
五  
字  
入

以偏廢矣。克得之者其誰也。甲越  
二公其序第卷。予曩記二公  
事得十二卷。名曰烈戰切記。既梓  
布于世。今又拾錄其洩。復得十二卷  
乃為後編。以授諸剞劂。前後合編  
總計二十四卷。以終局予之涉勞。


書經之既固也。覽者法於二公  
德柄相得之不久。旁辨諸士之善  
惡。善以自勸。惡以自懲乎。二公之  
德柄其永不磨也。是予之素願也。

嘉永六年癸丑冬十月

東陽誌

若松温書



  
 南雄三遠具五  
 我川中坐隊魚  
 車陣鷓蚌持久  
 工

棟春  


繪本烈戰功記後篇卷之壹

目錄

武田北条合戦之事

信玄以醪酒諸軍勵圖

甲相之勇士勸之事

馬場美濃守武勇之圖

武田信玄飯陣之事

原隼人佐庵原山啓行之圖

烈戰功記後篇卷之壹



僧本烈戰功記後編卷之一

武田小條合戦之事

夫戰國に將たり也。二徳と兼備せざるは以て守  
 以て國をひらむる能く。三徳といふは、智仁勇也。  
 越前本朝天文永祿の頃、當て甲州の太守武田大膳  
 左衛門尉兼佐原朝臣晴信入道信玄、相沢の太守小條  
 左衛門尉兼平朝臣氏安、越後太守上杉謙正、大弼輝虎、入  
 道謙信の三將あり。信玄、二徳を兼備し、武威を  
 関東に震ひ、英名を内外に馳せ、未だついで西國の  
 諸侯を威す。信玄の世、三家互小睨立、西國の  
 侍中にも永祿の季、小高て武田信玄も、小條氏安と



武田小條合戦之事

Blank area for the main text on the right page.

駿州小笠原兵と交り小笠原。今其末中と後小笠原河の  
 國主と今川と徳川源氏共とらふ也。是武田信玄の甥  
 也。而家此交親也。氏共又義元の嫡後也。而孫者  
 又信玄の孫也。列て必政とぬるる信玄。士民窮而恨其  
 會。隨云國の基とひき。人望小背てぬ。信玄と叔姪の男も  
 信玄の敵讐と成るべ。信玄益不徳と憤。孫孫其悪くと  
 遂又殺入るといられける如也。氏共又敗而信玄一  
 駿府の館と棄て落れまらんと。お乃の中条氏安の氏共  
 が勇たると依く。氏共が復落と聞。信玄が情を承  
 動が悪く。急ぎ是と追討して。氏共と駿府小笠原に  
 じめんと願。氏名が留て。領する所の東五ヶ國小笠原に

馬川 七ヶ

即時小軍列と撃つ。お乃の今川。中条が陸少。日治が少  
 補。日新三郎。松田尾張守。日根後守。特聖入。一房。九郎  
 信玄。大乃香。駿河守。多目周防守。荒川。豊後守。成田  
 下総守。千条少。圓胤。系式。近江守。橋本。次良。内藤。大  
 和守。大石。信濃守。始とて。惣勢四万五千餘騎とぞ  
 まさえつる。かくて小田原と出陣也。先まの真津川  
 かしら。薩埵山と旗と建まらぬ。お乃の系を交。氏安を  
 信豆の二條。お乃の旗と居まらぬ。其十一里。小田原  
 旗下の波管。さつづる。お乃の旗もあつ。旗旗。お乃の旗もあつ。さつ  
 千弋日。映。而。法軍。猛威と誇。一挙り。強敵と拉ん。こぞ  
 争へる。武田。方。お乃。信玄。とて。氏安。が。心。裏。と。察。し。かく

三

紅屋ト

あべつれとて。氏方方の勇士等の勢りたる。駿州  
苑は。浦系。山ある等の傍に。然と攻じて軍と成  
どめ。兵と散らぐと待め。臣は。氏安父もが出度。成  
とひじく。山縣三言。清尉。千五百騎の二倍と成  
山ある城乃。押れ。又。駿府。自一万余騎  
騎を引率て。奥河川系。出て出く。倍ま。りたる。山條  
勢もぞ向て。まける。

以上武田中条確執の隘。且今川氏其隘弱小  
而。國家と失ふ。ふ。起。并。伝。云。謙。伝。川。中。條。の  
烈。戦。等。洋。子。若。編。小。紀。せ。略。之。早。而。今。甲。相  
抄。取。の。始。と。知。の。あ。其。大。趣。と。奉。而。己。看。官。猶

希編小周て分解る

斯而武田勢ハ。彦彦山と。奥河川と。對峙と  
す。これ永福十二年。甲午。自。自。た。れ。だ。終。つ。て。今。今。の  
の。縁。と。成。む。山。の。城。の。勢。を。吹。か。つ。た。峯。の。向  
妙。又。奥河川。向。き。保。く。さ。り。つ。と。其。の。勢。を。吹。か。つ。た。峯。の。向  
面。と。成。り。た。れ。だ。換。り。あ。く。そ。と。家。々。肌。又。徹。き。か。つ。た  
足。と。成。り。た。れ。だ。傷。こ。や。つ。た。が。れ。た。心。さ。り。つ。と。其。の。勢。を。吹。か。つ。た。峯。の。向  
の。遣。兵。も。唯。眼。合。て。目。と。送。り。さ。り。然。又。一。日。武。田。信。玄  
彦彦山。山。頭。作。り。傳。り。又。傳。り。た。る。あ。の。歌。波。の。旗。の。ま。と  
洗。と。ち。ち。ち。ち。思。ひ。ん。だ。勢。と。成。り。鳴。呼。疎。を。り。て  
氏安の軍令。あ。ら。ふ。見。と。り。し。て。信。玄。又。款。せ。ん。と。り

康 敵

屈

汲

承りて。市大町の市立まうと。法軍いざりよつて汲と  
 むほども。皆十一分の酔とぞ僅くする。そ付信云  
 床もと立。是とるまうて。皆酒の約りたりたる。什磨  
 柳の宮を尋と後する車とあるまう。士卒等畏て突  
 又法軍の通り。市酒と十分ね領仕にが。まよりの若の内  
 恵のむがさふ。客をいさふ。忘まて。養生する心地  
 仕りていせと。是口は考あぞ云上りある。信云是と  
 些敷と。いけまうれて。御等が扱する平場の  
 政宮と存て。酒と飲て。人々の氣を寒くする。あつた  
 肴と薩埵山。倉橋の山と。取登て。後する。故むい  
 いうと。後て居る。依て予けりく様と察する。

日茂力記

信

敷

承りて。市大町の市立まうと。法軍いざりよつて汲と  
 むほども。皆十一分の酔とぞ僅くする。そ付信云  
 床もと立。是とるまうて。皆酒の約りたりたる。什磨  
 柳の宮を尋と後する車とあるまう。士卒等畏て突  
 又法軍の通り。市酒と十分ね領仕にが。まよりの若の内  
 恵のむがさふ。客をいさふ。忘まて。養生する心地  
 仕りていせと。是口は考あぞ云上りある。信云是と  
 些敷と。いけまうれて。御等が扱する平場の  
 政宮と存て。酒と飲て。人々の氣を寒くする。あつた  
 肴と薩埵山。倉橋の山と。取登て。後する。故むい  
 いうと。後て居る。依て予けりく様と察する。

集





月夜に力記一宮御参上

信玄の酒  
 以諸軍  
 勵之  
 圖



万葉の言一七卷之二

總

敵兵は山の上の宿に居り。其の在家よりして。宿を襲て。
 宿を居りひいて。然し海等。今飲する酒を
 の醒るる。彼山段の段と踏破敵を一返りけり
 分捕せよと下知せり。諸軍何れも。
 早旗の釋兵共。得りぬ。引提。麓山段の宿
 早旗の釋兵共。得りぬ。引提。麓山段の宿
 早旗の釋兵共。得りぬ。引提。麓山段の宿
 早旗の釋兵共。得りぬ。引提。麓山段の宿

甲相の勇士傷之事

甲相の勇士傷之事
 中条方又なる。麓山の先。山段の宿に居り。
 又甲相の勇士。一騎又傷員と交せん。
 とし。甲相の勇士。一騎又傷員と交せん。
 とし。甲相の勇士。一騎又傷員と交せん。

笑 酔 敵

敵兵は山の上の宿に居り。其の在家よりして。宿を襲て。
 宿を居りひいて。然し海等。今飲する酒を
 の醒るる。彼山段の段と踏破敵を一返りけり
 分捕せよと下知せり。諸軍何れも。
 早旗の釋兵共。得りぬ。引提。麓山段の宿
 早旗の釋兵共。得りぬ。引提。麓山段の宿
 早旗の釋兵共。得りぬ。引提。麓山段の宿
 早旗の釋兵共。得りぬ。引提。麓山段の宿

(あ)

海 敵

内多修理正。林宗田保をたつ。月共給尉。小山田徳中。  
 系隼人佐。小幡虎統。言坂弾正。耳利左衛尉。浅利  
 式部丞等。十歳以上の寔をたたく。一も切に戦う。其軍  
 物船妹の。一人高千の。るれば。た。其。物  
 毎又敵と追崩すと。い。これども。敵も日城は  
 四大所の。随一と。呼ま。ゆる。中条氏安。而も大軍を。陣圍  
 又。敵と。連。れ。る。ま。容。易。な。熱。勢。と。追。崩。す。も。た。れ  
 して。老。南。よ。り。と。ど。言。ひ。お。り。る。ま。又。甲。冑。方。言。坂  
 弾正忠昌佐。い。よ。て。上。松。謙。佐。と。押。の。る。て  
 後。松。海。保。の。味。と。言。の。あ。る。れ。ば。今。又。佐。云。渡。中。あ。て  
 越。来。り。り。角。の。春。暉。と。い。く。稍。遠。電。の。輝。る。や。上。松

謙佐。ふ。言。え。り。川。中。信。又。出。る。あ。ん。も。國。は。是。等。困。の  
 故。又。あ。る。秘。を。昌。佐。へ。言。ぎ。取。必。と。孫。堅。固。又。防。禦。此  
 唯。佐。と。あ。ん。べ。い。と。と。佐。云。より。暇。と。な。り。り。ら。れ。ば。言。坂  
 弾正忠昌佐。領。事。而。即。時。又。休。津。へ。と。ど。敵。城。を。る  
 これ。又。依。て。そ。の。代。り。と。疎。於。大。吹。分。一。も。初。の。中。小。交  
 寔。と。言。て。高。り。ら。れ。ば。別。に。百。騎。と。あ。て。出。る。故。に  
 小。条。方。の。勇。將。松。田。尾。張。守。あ。る。も。疎。於。些。大。敵。後  
 ぞ。ん。る。場。内。後。小。幡。佐。云。田。等。の。武。を。功。者。の。面。と。保。く。働  
 て。精。利。と。い。は。れ。る。と。ん。別。と。い。は。れ。ば。其。似。と。而。命。取。も。す。日。の。旗  
 と。推。立。せ。二。三。こ。又。付。て。め。れ。ば。故。に。松。田。尾。張。守。も。言。て。日。并。期  
 お。し。跡。跡。如。き。者。の。何。万。騎。よ。り。せ。り。と。も。者。の。數。う。と

其城の記し一書卷一

意

ほ

敵

内多修理正。林宗田保をたつ。月共給尉。小山田徳中。  
 系隼人佐。小幡虎統。言坂弾正。耳利左衛尉。浅利  
 式部丞等。十歳以上の寔をたたく。一も切に戦う。其軍  
 物船妹の。一人高千の。るれば。た。其。物  
 毎又敵と追崩すと。い。これども。敵も日城は  
 四大所の。随一と。呼ま。ゆる。中条氏安。而も大軍を。陣圍  
 又。敵と。連。れ。る。ま。容。易。な。熱。勢。と。追。崩。す。も。た。れ  
 して。老。南。よ。り。と。ど。言。ひ。お。り。る。ま。又。甲。冑。方。言。坂  
 弾正忠昌佐。い。よ。て。上。松。謙。佐。と。押。の。る。て  
 後。松。海。保。の。味。と。言。の。あ。る。れ。ば。今。又。佐。云。渡。中。あ。て  
 越。来。り。り。角。の。春。暉。と。い。く。稍。遠。電。の。輝。る。や。上。松

意

一打又進出して。佐雲が旗本と切つれよと。塵柄振  
 て下知とみる。猪り立ちたる勇兵共。直鉾を成てかきこた  
 えしが。獲て入りて相合りたる。名もなき松田  
 づ副兵又。跡跡が軍勢の若もさく退まらば。若くは  
 往又彼走す。南下に武田の勇兵。本郷八右衛門尉ハ  
 大お佐雲の命と付けて。後始大炊介が故の儉仗不向い  
 りろが。頼も味方の追崩さるゝと。又た遠く。鞍之を成く  
 守より。ちの未練する者共哉。未武田の軍勢。故お押  
 つけと。又さへに事ハ云りのと。逃て往し面瓜。向くこと。五  
 合て退きまはさる。崩る味方と。励まし。往軍の  
 こそ。ありのさ。お田が勢又。割て入り。彼横に。徹り

我ひて。敵と付り。救あられ。されども。ちの。後石を  
 わり。と。逆又。痛手と負く。付れど。どあさる。け。間  
 に。後始大炊介。勝負。稍命令と。い。棄敵あ。逃  
 と。と。捕又。松田が。勢。透間も。さく。追ら  
 引給勢。故又。受。引。も。か。せ。ま。を。こ  
 並樹の。影。又。追。は。旗。を。枝。又。引。ひ。て。是。と。さ。る。の  
 間。も。さ。う。令。限。又。働。け。り。ま。己。又。さ。さ。む。べ。ん。ど。さ。え。り  
 り。さ。下。佐。雲。ハ。本。隊。又。立。て。進。け。し。体。と。眺。り。て。多。た  
 る。場。兵。備。守。佐。房。と。召。ま。せ。曰。は。ま。と。看。よ。佐。房  
 引。給。め。さ。る。免。の。働。と。而。味。方。の。恥。辱。と。せ。ど。海。無。の。つ。て  
 ね。田。が。勢。と。追。崩。而。味。方。と。さ。り。又。引。揚。べ。し。と。命。せ。り。れ

馬  
敵

つねに。佐房畏て。市後よりりた。素事。市目がよん  
佐房は。兼而。部下されぬ。兵士。二百騎のり  
と。四百騎。隊。の。し。お。只。百。騎。を。し。け。な。市。使。と。付。て  
り。ん。バ。今。又。於。り。雜。兵。僅。二。百。人。少。く。は。な。り。け。し。由。知。方。と  
佐。松。田。が。大。軍。を。持。ち。て。つ。る。勇。氣。を。し。合。せ。し。ん  
り。の。受。束。さ。く。な。り。ま。也。又。於。於。大。敵。あ。み。百。の。軍。勢。を  
以。て。不。敵。ひ。負。し。し。め。られ。ん。け。し。後。市。け。し。中。兼。て。ん。御。り。て。余。人  
又。作。付。ら。る。り。つ。れ。う。と。ぞ。し。ける。佐。房。歩。ら。る。り。御。り。さ。る。り  
佐。房。承。つ。れ。海。と。牧。場。を。立。陣。せ。し。ま。上。校。が。大。敵。又。ら  
飛。騾。越。中。の。別。兵。の。押。と。付。せ。置。ま。し。ま。も。佐。房。が。出

敵。の。先。海。と。召。使。さ。む。と。い。ふ。こ。と。な。り。是。武。功。地。又。捕  
と。の。友。也。然。バ。今。眼。前。の。敵。と。追。あ。り。し。り。の。手。方。難  
俣。の。内。後。昌。考。を。さ。く。で。い。ま。る。り。に。辞。さ。る。り。及。ぶ。に  
支。人。の。り。ち。早。く。我。り。向。へ。と。作。ら。れ。ば。内。後。我。出。て  
日。僕。と。し。の。市。後。忍。入。て。り。也。と。て。些。退。て。又。佐。房。向。向。い。て  
日。於。於。勝。資。が。大。敵。又。及。び。割。受。向。ら。る。り。と。い。へ。ば。早  
討。死。い。じ。さ。る。り。も。知。れ。ぬ。此。ま。と。仕。り。を。さ。り。更。不。僕。の  
及。ぶ。而。又。あ。り。に。可。場。取。り。て。い。れ。准。う。い。づ。れ。市。後。の  
通。り。一。刻。も。早。く。向。い。り。入。ら。し。と。中。々。れ。ば。佐。房。今。の  
辞。さ。る。り。と。且。速。く。又。及。ぶ。に。市。使。又。遠。く。思。あ。り。と  
殺。で。領。掌。し。然。ら。ば。市。使。と。さ。る。り。ま。て。於。郊。外。一。足。も

川内四上巻

敵

早く引取れりと作付の邊に中ねたて我段又馳  
 入り。小副のを足追永。肩又我をさぐる。武者を引分  
 けて。引取れ大炊子。松田尾張守赤負。後走より  
 依て。兼又二の柳を仕りて。松田を追崩せよ。中  
 邊の上をさる。辞さるふ及ぶ。馳向ふの中をさる  
 をねが。一入早く。軍勢を搦中へ。中付けきん  
 ちの者畏てり。音も敵に。兼て子ぬりや仕  
 置らん。須臾又人数三百人と搦られ。佐房を  
 せうとせ。連又る又歩跨り。宋輝。赤く赤出。地急  
 山及の旗と押さうせ。八幡平へ出て出。付付。佐佐  
 の旗本より。百足の旗の志。武者一騎。乱れ立

松本

招

たる引取れが勢又馳入。足並よく退くべし。大木の  
 命と傳へま。系殺せ。弱兵をねが。大炊介をば  
 して。這うは逃除へ。ん。若輩あり。る。拳動あり。馬場  
 英濃守佐房の引取れが勢をさる。人。流。二百騎を  
 奇兵と。雨後。い。人。我旗本。四十騎。人。魁。と。と  
 引取れが。大。敵。と。追崩して。火炎の如く。競ひ。松田が勢の  
 二千餘騎の中へ。面も。赤。歩。松田尾張守。吃と  
 えて。只。今。馳。向。ふ。雨。の。敵。の。荒。ま。い。正。し。く。る。場  
 英濃守。と。と。と。是。大。乃。敵。う。る。ぞ。然。も。ど。も  
 人。数。の。三。百。ま。よ。も。さ。ど。小。勢。と。以。新。又。押。出。と  
 我。大。勢。と。戦。り。ん。と。と。己。が。武。勇。を。鼻。ま。け。る。と

敵

に。松田が選兵十七八騎。抱てきて討ち方な  
 したも勇。松田勢。是又僻易而。包めきく。松田  
 所。後又倭。二百餘人。二手に列を。極先と搦て双方  
 より。入遠て突立。松田が軍勢。忽四支路。成て  
 崩。うらんと。さ。る。場が隊下の。猛兵。根  
 法竹の。大武坊。崩。際。陰。と。名。衆。て。敵。の。勇  
 士。或。古。騎。と。突。伏。て。働。り。松。田。勢。足。と。止。り。の  
 出。と。崩。て。引。退。と。大。波。の。掩。り。如。又。追。々。松。田。尾。強  
 守。大。怒。り。ふ。と。入。ん。と。ま。れ。も。二。百。六。百。の。大。波。と。立。り。人  
 正。能。不。成。と。遂。に。想。多。く。又。級。走。り。る。松。田。が。軍  
 勢。追。う。け。追。後。首。と。獲。束。七。十。二。級。敵。死。二。の

烈戦力記二篇卷之一

十一

敵

敵

受。たり。唯。引。色。ん。で。一。村。又。崩。と。お。松。田。の。手  
 並。ん。で。さ。り。か。ま。り。と。衆。牌。を。下。知。り。れ。た  
 諸。軍。勢。を。勇。と。は。四。方。より。押。り。合。て。さ。場。が。旗  
 本。百。餘。人。を。引。色。ん。で。ま。り。も。残。さ。ず。討。た。と。は。り  
 切。ち。ら。ぬ。さ。場。佐。房。三。井。勅。で。は。疾。絶  
 の。兵。士。死。一。放。切。又。敵。を。赤。嚙。め。次。又。究。竟。の。勝。る  
 武者。と。二。百。又。傳。り。ぬ。敵。方。上。と。は。り。追。う。り。類  
 して。下。立。ひ。ま。の。誓。き。所。と。ん。便。し。内。甲。と。ん。上。の  
 突。落。う。せ。る。の。平。首。太。版。あ。い。の。體。の。遠。方。ど。が  
 突。立。り。る。素。小。勢。の。り。る。れ。た。敵。又。中。を。割。き。じ。と  
 後。と。腹。と。合。せ。て。働。き。り。る。あ。ら。う。け。騎。兵。の。陰。先

烈戦力記二篇卷之一

十一





采配

に。武田方の緒隊およびして。士率又ゆるりまて。佐房が  
 武功の好とと。莫賞とる勢志に。後止りなる。佐房  
 も大に悦ぶ。此晴佐入るが同矩の。毛頭遠く  
 うらとぞ自稱せしむる。形勢ける。又。場員懐き  
 佐房。采牌と授け納め。甲と腹で言紐よりけ。市  
 近くぞ畏る。佐房早晚よりも心勇。又。勢  
 及し。天晴なり。兵備守。後今自の働。些強さる  
 換ええりぞ。ま十分の備。易の程も。皆て。何  
 や。危うき。不。右の腕も。さ。形  
 案る也と。市。そ上感状を。下  
 佐云。ひて。今自。改。使

城戸まで押込。別冊とも采配。目  
 ちる。佐房。又。お。高下  
 使系志四名と召きて。汝馳給て佐房又早。勢と引  
 揚ぐし。中。令。色。四  
 言畏て少。退。る。上。ふ。り。と。赤。跨。り。百。足  
 の指。中。と。如。又。教。と。加。て。け。付。大。の。命。と。傳  
 々。ま。た。る。場。員。懐。守。佐。房。領。事。し。て。忽。軍。中。と。馳  
 馬。引。揚。た。る。武。田。の。孫。麿。ハ。心。又。是。手。足。と。き。ふ。ま  
 々。小。条。方。も。是。と。感。且。佐。房。が。武。田。方。も。怖。え  
 惟。あ。て。受。留。ん。と。さ。る。者。す。也。然。し。て。あ。り。居。る

本郷八右左衛門事。一向宗の長遠寺が惣なれども  
頗る武勇ある故。近ききひし。又、塲敷ありて抽する  
武功とて大刻の働とほして付死と遂らる。嗚呼情狀  
勇の士再々んこ其を及べとて。落度ありなれども  
又、控の袖とぞ儒なる。尚下内を修理心胃す。佐房亦向  
て。今日の市働。其及又相合ざる候と仕りぬの故と云へ  
佐房亦笑ひて。然るに弱敵の崩る。討に及らぬ所の  
さらば内後亦是と賞して。実なる協成が。其及又奉初  
る。武乃未熟の面とて同扱と云ふて働まば却敵の

獲りたる。武名とけいけいせと云ふれば。外郎是  
瓜傳きして。大又懐り思ひくるとぞ。佐房も内後が中  
有と云ひぬ。是武乃評儀の義と也。平家の武篇  
の穿鑿。頂上へ屯る。面もも思ふて。保  
入せぬ扱武乃と應へ。保佐房が如し是れと云ふ及  
と云ふれば。佐房面目と施て。京政あぞぬりたる。甲冑の  
軍勢。をらく故と押付と云せたる事。今日於於の故  
走したるが。前後初と云ると。徳軍にみと云して  
悔しける。け跡於大炊か。恥智に云ふ。其向ふ人。出  
以牙の者な。諸士是と云ふの事。其及又云ふと云ふ  
程も云ふまゝ八幡林。紅丸小旗の意るほど

とぞ遙ひる。跡跡の旗。白地は日の丸と画する。其  
かゝる怯弱の者。日の丸乃て人の心を分るる。此  
等。あざむく。紅丸の小旗。あても然る。ばらばら  
今日。級軍。や。何。八。旗。林の並樹の枝。よ。を。引。越。し  
見。若。し。かり。ら。つ。と。あ。ざ。む。り。と。お。の。ち。に。遙。ひ。り。ら。り。  
是。あ。ら。わ。り。と。今日。款。勢。と。遊。互。し。る。時。考。の。大。式。が。働。こ。を。抜。群  
世。と。人。感。賞。し。ら。る。よ。考。大。式。を。用。除。ひ。と。負。存。命  
ふ。度。る。と。あ。ざ。む。ら。べ。伝。言。殊。は。惜。せ。し。ま。て。種。々。医。療。を  
令。せ。し。ま。ら。ん。が。そ。の。後。疾。痛。て。り。不。復。し。し。と。ぞ。あ。ざ。む。ら。り  
**武田信玄取陣之事**

秘。而。武。田。少。左。衛。門。尉。の。友。雄。正。月。十。八。日。より。而。四。月。十。日。と。九。十

昨日の間の討陣。同日、敵は乃、迫合あれども、武田の旗隊  
は、一、反、も、敵、と、争、う、た。只、云、く、い、ま、う、り、じ、の、跡、跡、の、り、ら、り。此  
討陣は、同日、又、歴、間、也。伝、言、云、く、ま、り、ま、り。に、尻、横、山。清水の  
三ヶ所、又、陣、と、築、う。繩、張、り、皆、り、場、原、備、守、伝、房、の、秘  
に、今、福、和、泉、守、承、て、新、丸、人、足、約、兩、七、千、餘、人、と、以、登  
夜、の、分、ち、も、さ、す。い、ま、ぐ、れ、し、ら、べ。ふ、日、又、成、就、さ、り、ら、り。中、に  
も、清水の城。海、城、の、寄、安、き、場、亦、な、れ。ば。小、条、家、より。ふ  
よ。又、船、軍、と、戦、う。と。大、ま、り、う、ら、る、と。傳、言、云、く、別、而、秘  
密、の、繩、と、ぞ、捕、ら、り、ら、り。是、い、し、山、本、勘、入、乃、道、鬼、より  
伝、房、へ、傳、へ、な、る、法、也。伝、言、云、く、伝、房、の、九、子、三、右、乃、不、敵、子  
の、勢、と、は、副、て、い、城、を、ぞ、取、ら、る。は、丸、子、の、伝、房、が、擧、り、と

船軍此法と。佐房より又傳るるに。知るるが如しなり。其小清水の繩の大事。曲尺の習とらふ是也。佐又久野の城小。今猶入る又子。江尻の城小。武田左衛門佐光。横山の城小。穴山守屋入梅吉とぞ。義経もきんる。其時武田家の軍勢。甲斐佐信儀の所より。大山嶮組多。兵糧運送此通路。ゆぢれ。佐率これ又苦みてぞ。えんうけける。佐玄も良ゆと困らきて。先づ場佐房。内後昌孝と召く。軍の吳んと。あひらうらうら。内後昌孝中ける。初長くと目と。言ひて。市波あまの。腹あぐら。然べうら。たくと。医所が眼と。能明あせん。脚の三里は。冬孤せうせは。損又いと。又る場佐房の。咏本と。や。乃

あ

あ

いぐ。虫と。えや。わんと。く。穴の後と。咏き。虫の口へ。出ると。初て。取の。損又いと。や。ふ。佐玄。き。じ。め。され。酒の。吳ん。む。と。を。あ。れ。抄。予。今。友。の。出。波。は。今。川。氏。去。と。懲。う。ん。が。み。ふ。て。小。条。父。子。も。唯。雄。と。交。せん。と。あ。ら。わ。る。然。る。も。小。条。父。子。今。川。の。加。勢。と。号。遮。て。予。と。對。波。は。されども。予。將。先。小。向。へ。べ。れ。又。ら。う。孫。バ。大。軍。と。十。余。里。の。間。又。連。り。そ。の。外。へ。稍。領。か。の。三。條。小。居。て。容。易。小。旗。兵。進。ま。ら。ん。彼。虫。の。穴。中。より。出。た。赤。膜。の。眼。は。遂。上。未。り。さ。る。が。如。し。今。我。れ。と。對。ん。と。難。小。あ。う。ね。ど。猶。け。れ。又。目。と。重。ん。の。前。中。端。畔。の。案。考。以。快。う。ら。げ。故。又。先。兵。と。引。て。本。團。又。敵。ら。ん。然。時。は。氏。安。父。子。入。代。て。旗。と。建。て。け

207

敵

任云と暴悪烈欲の者也と。世に誅らせ。己の氏志と  
 還任せせんあざむ。我名を震へし。実の是も信  
 うべ而。駿州一玉と奪らんとの姦計する事。殘ふりけ  
 た多如し。吾も予彼と追ふ。け玉と獲ること  
 事と吾よりも安られば。先敵攻と急ぐべしとて  
 駿府又送り。並ま。山縣三良清尉と召よせしむ  
 て。敵の攻城一ケ所を即討又押崩せ。又。る場。山縣  
 の友人又命兩。今宵由井原三が陣に夜討とけ。敵  
 又賊と覚えよせよ。まとい入。夜を拂うべしとて定めしむ。形  
 賑ごこれる。由井原三氏照と号。氏安の二男ふと。今も余  
 陸奥と改。武忍八王寺の城と成て。武名と関八州と

268

戦烈

車  
 車あうせしる程の別傑あはれ。我勇猛と稱し能  
 と味方の諸管とせしむ。武威と張てぞ改れしむ  
 形て。る場。英儀守。山縣三良清の支雄。任云の  
 命とせしむ。遣兵おし引率而。夜原又及んで  
 悪びやういど押あしむ。る場。佐房がまに。富田の  
 とて。悪樹の遠人。又。是も秀らぬ。別の者。早川三虎  
 馬の。海野新左衛門。金丸孫左衛門。有。佐房討四人  
 悪びの形と為。そ外。究竟の騎る三十騎と。同勢と定  
 て。密に計策と示し。合せて。后。境。攻。出。抜。し。山。条。家  
 の。裏。人。は。似。又。由。井。原。氏。照。が。波。中。又。入。込。せ。後。雨。又  
 火と。急。を。あ。ち。り。る。場。が。同。勢。これ。と。足。り。も。勢。破

清



原隼人佐  
庵原山  
啓行  
の  
図

川内カ...

十九

白馬徒勞足  
玄馬空翕翮  
非君能教導  
一路奈娼境  
東明  
幽篁



信玄

石原...

敵 仰

お國の火乃も揚りしとて。噴き呼で切て入をふとの  
後付又敵大ふ撃る天時。よとり人と強立と。山縣が勢  
一交小乱をい。勇と震て切まらまば。小条勢付る者  
敵とあつた。さうりの氏照も依と拵て。逃の死るを  
る場。山縣等へも強く勢を引揚て。本の政亦又敵  
らまば。佐云大又感悦あて。さ場。山縣が武略。今又  
始ぬるさるると。慶長はつらびどあける。明は四月廿  
七日。甲府又敵攻むべし。云出されたまども。薩摩山小  
而勢大軍と堅固又依とつて拵て。甲府の敵路を割  
切たまば。是と繼進て。庵原の山越よこと引たつと定め  
られし。武井けた嶮阻あし。推又彌雄もあひがた

所ありたれば。如何あんと。衆議あつて。さる所。系集人佐  
昌勝。進出て。山溪の言候。坂路。石徑の曲直。溪河の  
候。拵。拵乃の歩。敵中を拵り。云上而。啓新と死  
ゆ。佐云。許定あて。則集人依。先驅と令せら  
る。諸軍を引て。山中又かひと。集人佐昌勝。亮出  
經と守て。四月廿八日。安。甲府も敵攻むれらる  
。小条左系太夫氏安。二海の本。度おきて。佐云。敵攻  
む。と。佐云。進。諸軍小拵。拵。先手より。而。順  
又。旗と。お。翌日。敵。入。館の。今  
川家の。小。東川。久。富永。酒井  
阿。外。小。者。残。行。浦。大。神

敵

師

田。屋布。高玉吉。若徳寺。長久保の城。少中条濬代の  
 諸士と統率。予城を我あて而。氏安。氏政。佐々木小四  
 郎。等。彼攻めをせり。折智勇又秀。寛仁の時。先  
 少条氏安。比も親しき臣。氏田家と交を絶。忽。歟。雙を  
 成。は。能。き。條。通。少。を。攻。め。る。そ。う。な。り。ん。と。あ。ま。ま。を  
 氏安も。兼而。駿州も。攻。め。る。と。う。け。ら。る。と。い。ふ。も。流。石。よ  
 世の人口を。い。ひ。ひ。て。因。と。た。り。て。居。る。と。い。ふ。今。又。兵。を  
 石。を。起。り。て。氏。安。と。追。ひ。つ。て。ま。り。り。氏。安。又。亦。因。を  
 ゆ。り。と。し。て。信。玄。が。暴。戾。を。惡。氏。安。が。還。征。せ。し。ま。り  
 ん。この。兵。を。併。り。て。以。對。彼。少。及。を。れ。り。我。を。放  
 て。我。と。好。ま。ぬ。大。軍。を。出。し。固。又。後。先。を。し。り。て。攻。め

政。管。と。守。り。敵。と。長。攻。め。退。屈。せ。し。ま。り。甲。兵。の。敵。路。を。塞  
 送。送。の。乃。と。對。切。て。日。と。經。ら。り。越。後。の。上。杉。澤。信。之。助  
 隣。必。よ。り。甲。兵。の。向。へ。な。は。り。あ。り。ん。然。と。れ。ば。信。玄。周。邊  
 而。師。と。ほ。も。引。ん。と。し。ら。り。亦。途。に。塞。た。れ。ば。頭。又。狼。狽。見  
 事。討。め。り。少。条。方。互。相。の。大。軍。一。吞。又。壘。威。と。震。て。信。玄。討  
 兵。氏。安。の。賊。名。を。引。き。出。し。て。并。べ。り。の。計。略。也。而。信。玄。三  
 が。の。名。を。申。上。り。て。是。と。あ。り。て。以。還。又。庵。原。の。險。阻。と。踏。み。ぬ。き。又  
 飯。沼。と。す。也。氏。安。果。は。お。遠。く。し。り。ぬ。也。也。而。少。条。氏。田  
 信。玄。と。一。因。又。追。ひ。つ。て。を。り。し。て。是。と。告。げ。て。有。我。軍。威。と。ぞ  
 釋。せ。し。り。池。清。二。行。ア。キ。仰。心。を。極。む。

繪本列戰功記後編卷之一

池清

二行アキ

仰心を極む



